

表 1 種苗生産結果

項目		区分				
		1	2 *	3	4	5
収 容	水 槽	7 × 4 × 1.9 m (飼育水量 40 m ³)				
	月 日	5 / 30	5 / 30	6 / 18	6 / 19	6 / 19
	卵 数 (千粒)	1,560	1,560	3,660	3,770	1,573
	ふ化仔魚数 (千尾)	1,303	1,361	1,964	3,502	1,500
	ふ化率 (%)	83.5	87.2	53.6	92.9	95.4
収容密度 (千尾/m ³)	32.6	34.0	49.1	87.6	37.5	
取 り 揚 げ	月 日	7 / 10	10 / 17	7 / 26	7 / 26	7 / 23
	飼育日数 (日)	42	131	39	38	35
	飼育期間中の水温 (°C)	22.9 ~ 27.9	22.8 ~ 28.7	23.1 ~ 28.7	24.2 ~ 28.4	24.7 ~ 28.4
	尾 数 (千尾)	14.4	0.4	34.5	28.5	67.0
	密 度 (尾/m ³)	360	—	863	713	1,675
	ふ化仔魚からの生残率 (%)	1.1	—	1.8	0.8	4.5
	全 長 (平均 ± S D)	18.94 ± 2.45	90.0	16.25 ± 2.42	15.34 ± 2.17	14.75 ± 2.01

* 生残数激減のためふ化後12日目より10 m³水槽に移送し飼育継続

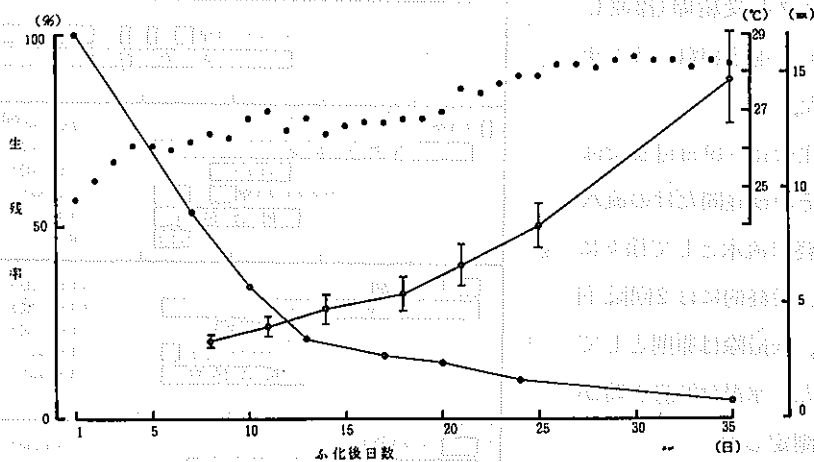


図 2 生残率, 水温, 体長の経時変化

ようにマガキ幼生なしで生産に結びついたものがあり注目される。しかし生残率は図2に示したとおり、ふ化後10日目頃まで大きく低下しており、早い段階での減耗が大きかった。これは依然初期餌料に問題があることによると思われる。

Ⅱ 中間育成

1 方法

中間育成は図3に示した場所で、海面小割網生簀(4 × 4 × 5 m, 5面)を用いて行なった。種苗の輸送は、1.5 m³の活魚輸送タンクに14,400~36,500尾を収容して、酸素を通気しながらトラックで

表 2 中間育成結果

項目		区分				
		1	2	3	4	5
収容	月 日	7 / 10	7 / 23	7 / 23	7 / 26	7 / 26
	尾 数 (尾)	14,400	30,500	36,500	28,500	34,500
	全 長(平均 ± S D)	18.94 ± 2.45	14.75 ± 2.01		15.34 ± 2.17	16.25 ± 2.42
取り揚	月 日	10 / 8	10 / 17	10 / 19	10 / 18	10 / 18
	飼育日数 (日)	91	87	89	86	86
	尾 数 (尾)	6,503	9,216	8,292	7,996	8,164
	生 残 率 (%)	45.2	30.2	22.7	28.0	23.7
	尾又長(平均 ± S D)	96.9 ± 12.1	81.4 ± 11.9	87.2 ± 12.1	79.8 ± 15.0	83.4 ± 13.5

1 時間から 2 時間半かけて行なった。

使用した生簀網は当初 1 mm 目で以後魚の成長に応じて 3 mm 目、5 mm 目を使用した。

餌料は主に配合飼料(マダイ用初期飼料, マダイ用ペレット)で、キビナゴ、オキアミミンチ、ハマフェキ卵も少量与えた。投与回数は収容当初 6 回以上/日、終了時には 4 回/日であった。

2 結果および考察

飼育期間中の水温は 26.4 ~ 31.2°C であった。今年度は取り揚げ尾数(合計約 40,000 尾)、生残率(平均 27.8%)ともに前年度を上回り(表 2)、沖出しサイズの大型化による好結果が表われた。しかし依然低い水準であり、今後沖出しサイズの再検討、飼育方法の改良等に取り組む必要がある。

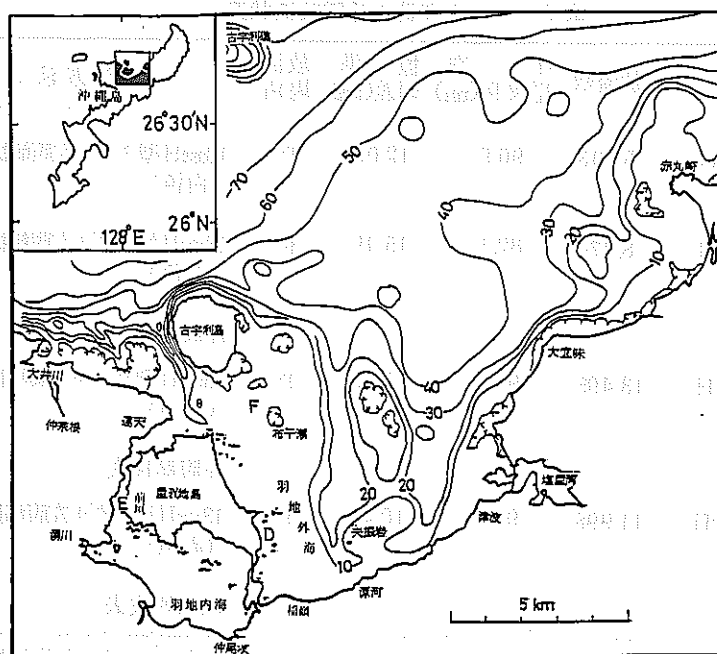


図 3 中間育成場、放流点とその周辺海域の水深

D : 放流点 (10 / 8, 10 / 30 '85), E : 中間育成場・放流点 (10 / 29 '85), F : 放流点 (10 / 30 '85)